

# 歌詞に表される「女性」の日中対照研究

— 1990年代と2000年代を中心として —

周 密  
(2018年10月4日受理)

A Contrastive Analysis of Feminine Images in Japanese and Chinese Pop Song Lyrics:  
During 1990s and 2000s

Mi Zhou

**Abstract:** The aim of this study is to examine and contrast how female images changed in Japanese and Chinese lyrics. To achieve this, this study focus on 'onna' 'nv' in popular song lyrics of Japanese and Chinese from 1990s and 2000s. The following results were examined: There is a decrease in tendency to refer to women directly in Japanese lyrics, whereas a slight increase was observed in Chinese lyrics; In Japanese lyrics, sexual objectification of women was mostly observed in 1990s, whereas in 2000s, women were mostly taken as supernatural; However, in Chinese lyrics, women were mostly seen as emotional/delicate in 1990s, whereas in 2000s, women were mostly seen as a partner essential in relationship, or even as villainess/evil; In Chinese lyrics, women were not seen as sexual objectification.

Key words: lyrics, gender study, feminine images, contrastive analysis  
キーワード: 歌詞, ジェンダー, 女性, 日中対照

## 1. 研究の目的

本稿では、日本語と中国語の歌詞に表されるジェンダー、特に、女性像の描かれ方について、年代別に分析し、両者を比較することを通して、それぞれの特徴を明らかにする。

社会の中で繰り返し聴かれる歌の歌詞は、その社会の男性や女性にふさわしいと思われる態度を構築する役割を果たす (Cooper, 1985)。近年、日中の交流が深まる中、歌詞を対象とした分析は、両社会に存在するジェンダーの特徴を明らかにし、異文化間コミュニケーションの前提の一つであるジェンダーに関する背

景知識を解明することにつながると考えられる。しかしながら、ジェンダーの観点からの歌詞に関する日中対照研究はこれまで行われていない。

本稿では、女性に対するジェンダー・バイアスが日中両言語ともに男性より現れること (任, 2017) を考慮し、男性との関係の中で「不平等」な位置に置かれる女性というジェンダー (森, 1992) を解明するため、日中 (注1) の歌詞の中で表される「女性」がどのように変化してきたかについて、1990年代と2000年代の歌詞を比較し分析することを通して明らかにする。

## 2. 先行研究

日本語をジェンダーの観点から分析した最初の研究である寿岳 (1979) では、市販の歌集に掲載された844曲 (歌謡曲, 演歌, フォークソングなど) を対象に、歌の中の「女性」の行動や姿態について分析されてい

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員: 永田良太 (主任指導教員), 畑佐由紀子,  
柳澤浩哉, 深澤清治

る。その結果、「女性の姿態」として「かわいい・やさしい・長い髪」が高頻度に見られた。また、「女性の行動」としては、「待つ・愛される・泣く・甘える」の頻度がきわめて高かったことが指摘されている。ここから、寿岳（1979）では、女性は歌の中で恋愛の世界に生き、男性にくっついている存在ではないかといひかけ、女性の主体性が喪失していることを指摘している。寿岳（1979）によれば、このような女性像は、現実の女性と異なることもあるが、日本の社会で期待される女性像が表されているという。

寿岳（1979）以降、ジェンダーの観点からの日本語の研究が見られるようになるが、その中でも歌詞を分析資料とした研究には、難波江（2001, 2002, 2003）、尾崎（2014）、吉崎（2015）などがある。

難波江（2001, 2002, 2003）では、ポップソングの歌詞に表された「女性」に関して、1960年代に「男性は強く女性は弱く」や「男性に愛されることが女性の幸せ」という考え方が見られたが、「男性は強く女性は弱く」という考え方は1970年代から1990年代にかけて「特に男女どちらかが強いということはない」という考え方に変化しつつあることが指摘されている。一方、1990年代以降、再び「男性は強く女性は弱く」という考え方に無意識に支配される女性像が見られ、「幸せの基準を探す」という女性像や男性像が見られるようになったという。

1990年代以降、男女の関係について、喜びや悲しみを分かち合う対等な立場であることが、ポップソングの歌詞に表され（尾崎, 2014）、2010年代には「女性が男性を守る」という女性像も見られる（吉崎, 2015）。

このように、日本語の歌詞に現れる「女性」は、1970年代には恋愛の世界に生き、主体性を喪失する存在であったが、1990年代にかけて弱い存在ではなくなっている。その後も歌詞の中に「女性」が描かれているが、1990年代以降の「女性」について、弱い存在であるのか、それとも「男性」と対等な立場にいるのか、分析に用いられた資料が異なるため、見解の不一致が見られる。また、2000年代にはどのような「女性」が描かれているかについての検討も不十分である。

一方、中国語の歌詞における「女性」を分析した Zheng（1997）では、1900年代から1930年代までの学校の歌（school song）、流行歌、マス・ソング（mass song）を対象に、歌の中の「女性」の姿態や行動、及び「女性」にふさわしいと思われる態度について分析されている。その結果、1900年代前半から1920年代前半までは、「幻想にふける」「セクシー」「ふしだら」な女性が描かれる一方で、国を救うヒロインになることを勧めたり褒めたりする歌詞が見られる。そして、

1910年代前半から1930年代後半までは、勇敢に戦う女性が描かれるようになり、1920年代半ばから1930年代後半までは、ロマンチストでエロティックな女性が特に流行歌の中で描かれるようになったという。このように、中国においても歌詞における女性像は、社会の変化に合わせて構築されている。

Zheng（1997）以降、中国語の歌詞をジェンダーの観点から分析・考察した研究には、張（2008）、陸（2013）、Lu（2018）などがある。張（2008）では、1996年から2006年までに流行したポップソング（注2）の歌詞に表された「女性」に関して、理想化（例：「天使のようだ」）、悪魔化（例：「男性を弄ぶ」）、客体化・物化（例：「バラのようだ」）、恋愛における受け身的存在、男性に尽くす犠牲者、が多く描かれるが、恋愛の主導権を握る女性、または恋こそがすべてであるということに疑う女性も見られることが報告されている。しかしながら、ポップソングにおいて、恋愛に積極的な自立した女性像が描かれることは少なく、大部分は依然として男性に愛されたい、頼りたいという女性像が描かれているが、そのような女性像は、実社会における女性像と離れている部分があるという（陸, 2013）。

また、女性の客体化・物化がポップソングの歌詞で描かれることに加えて、自らの価値を下げ、男性を立てるといった女性像も見られる（陸, 2013）。一方、恋愛に悩む女性よりも傷つく男性のほうが多く見られることも指摘されている（Lu, 2018）。

このように、中国語の歌詞に現れる「女性」について、1990年代以降は「男性は女性より優位である」という考えに基づいて理想化・物化される女性が多いこと、恋愛に不安を感じる女性が現れることが明らかにされている。しかしながら、先行研究ではそれぞれ特定の年代の「女性」に焦点が当てられている（Lu, 2018）ため、1990年以降の女性像がどのように変化しているかについての検討は不十分である。また、先行研究で分析資料とされている歌詞の選択基準が明らかにされていない（陸, 2013）ことや、分析方法が示されていない（張, 2008）ために、分析者の主観に基づく判断が混在している可能性も考えられる。このように、先行研究では、1990年代以降の中国語の歌詞に表される「女性」を包括的に把握するには不十分であると言える。

本稿では、上記の問題について、1990年代および2000年代の日中の歌詞に表される「女性」に関し、まず、どのような表現で「女性」が描かれるかを検討した後、そこで描かれる「女性」を姿態や言動といったカテゴリー別に比較して、その特徴を明らかにする。

なお、歌詞に表される女性像を明らかにするために、先行研究では、歌詞に描かれた主体を、歌手の性別と

結び付けて分析されることが多い。しかしながら、山川（2009）が指摘するように、歌詞の主体と歌手の性別との間には差が生じる場合もある。ここから、歌詞に表される女性像を分析する際には、どのように主体の性別を判断するかという問題が生じる。歌詞の中で明示されていない限り、主体の性別を判断するための判断基準そのものが、ジェンダー・ステレオタイプから影響を受ける可能性が大きい。歌詞の分析に際しては、この点に留意する必要がある。

### 3. 分析資料と分析方法

本稿で分析資料とする日本語の歌詞は、オリコン株式会社の調査による1990年から2009年の年間販売数20位までに入った歌を収録した歌詞コーパス（左古，2015）である。また、中国語の歌詞は、可能な限り日本語の曲数と一致させるため、主に（注3）ポップソングランキング「中国歌曲排行榜」「全球华语榜」「东方风云榜」（張，2008，李，2015）の1990年から2009年の歌から、1年間に約20曲を抽出し、歌詞コーパスを作成して用いる。曲数に関して、日本語は1990年代・219曲，2000年代・236曲，中国語は1990年代・201曲，2000年代・195曲である。これらの歌はメディアを通じて繰り返し放送されることによって、社会の中で「繰り返し聴かれる」という共通の特徴を有している。Butler（1990）が指摘するように、ジェンダーは言説のパフォーマンスによって構築される。ポップソングという歌の性質から、聴き手の年齢層や社会的地位、性差等に制約はあるが、繰り返し聴かれるという点では、社会におけるジェンダーを構築する役割を担っていると考えられる。もちろん、歌詞以外のメロディや歌手のイメージなども、聴き手に影響するが、本稿では言語的側面に着目して、歌詞のみを分析対象とする。

分析方法に関して、歌詞の主体の性別を判断する際には先に述べたような問題があるため、本稿では当事者が女性であることを明示する（田中，2009）「女」を含む表現に着目して分析を行う。

具体的には、前述のコーパスにおける、1990年代と2000年代の日中の歌詞から「女」を含む表現を取り出す。その後、両者を比較しながら歌詞に見られるそれぞれの女性像の特徴と変化を分析する。

## 4. 分析

### 4.1 日中の歌詞に見られる「女性」の種類と出現数

日本語の歌詞コーパス中に見られた「女」を含む表現を年代別にまとめたものが表1である。

表1 日本語の歌詞コーパスに見られた「女」を含む表現の種類と出現数（注4）

	1990年代		2000年代	
	表現	出現数(%)	表現	出現数(%)
1	女	30 (47.6%)	女	13 (36.1%)
2	少女	7 (11.1%)	少女	6 (16.7%)
3	女子	7 (11.1%)	女の子	4 (11.1%)
4	貴女	5 (7.9%)	乙女	3 (8.3%)
5	彼女	5 (7.9%)	女神	3 (8.3%)
6	女神	4 (6.3%)	彼女	3 (8.3%)
7	女の子	3 (4.8%)	女性	3 (8.3%)
8	美少女	1 (1.6%)	女子	1 (2.8%)
9	女王	1 (1.6%)		
	合計	63 (99.9%)	合計	36 (99.9%)

表1における表現の種類と出現数を見ると、いずれの年代においても、単独の「女」が最も多く使用されていることが分かる。ただし、その使用割合は年代とともに減少する傾向が見られる。

一方、中国語の歌詞コーパス中に見られた「女」を含む表現を年代別にまとめたものが表2である。表2における表現の種類と出現数を見ると、いずれの年代においても、「女人」が最も多く使用されていることが分かる。

表2 中国語の歌詞コーパスに見られた「女」を含む表現の種類と出現数

	1990年代		2000年代	
	表現(注5)	出現数(%)	表現	出現数(%)
1	女人	25 (54.3%)	女人	24 (49.0%)
2	女孩	14 (30.4%)	女老师	6 (12.2%)
3	女儿	4 (8.7%)	女朋友(女友)	6 (12.2%)
4	女子	2 (4.3%)	女郎	6 (12.2%)
5	女	1 (2.2%)	女孩(女孩子)	4 (8.2%)
6			女	2 (4.1%)
7			女儿	1 (2.0%)
	合計	46 (99.9%)	合計	49 (99.9%)

表1と表2を見ると、「女」を含む表現の出現数に関して、日本語は1990年代では219曲中63例（28.8%）、2000年代では236曲中36例（15.3%）、中国語は1990年代では201曲中46例（22.9%）、2000年代では195曲中49例（25.1%）の表現が用いられている。ここから、日本語の歌詞では「女性」に直接的に言及されることが少なくなっていることが分かる。

4.2 日中の歌詞に見られる「女性」の姿態や言動

以下においては、「女」を含む表現が見られる前後の文脈を手掛かりとして、歌詞に表される「女性」の姿態や言動について検討する。なお、本稿においては、Cooper (1985), Flynn など (2016), Avery など (2017) に基づき、歌詞に見られる女性像をカテゴリー化する。また、先行研究で指摘される既存のカテゴリーに当てはまらない場合には、新しいカテゴリーを設けた。カテゴリー化に際しては、日本語母語話者2名、中国語母語話者2名にカテゴリー化の作業を行ってもらい、日中のそれぞれにおいて2名の判断が一致したもの(注6)を本稿では分析対象とする。

まず、日中の歌詞においては、以下のような「女性」の姿態や言動に関するカテゴリーが見られた。

表3 日中の歌詞に見られる「女性」の姿態や言動に関するカテゴリー

	「女性」の姿態や言動	例
1	従順である、服従する、犠牲者である	「いったいどれだけ女が男を許してきたんだろ」
2	配慮的・支持的である、感情面のケアを提供する	「傷ついた女はやさしくなれると言うよ」 「只因那春天般的女人她温暖我的心」(春のような女が私の心を暖めてくれるから)
3	パートナー・恋愛を必要とする、恋・パートナーに憧れる	「地味に生きて行くのあなた好みの女 目指せっ」(注7) 「他们说城市里男不坏女不爱」(都会では悪い男じゃないと彼らは言った)
4	パートナー・恋愛の対象として必要とされる	「分かり合えた友の愛した女でさえも」 「让你梦中的女郎 带你到处去流浪」(あなたの夢の中の女が あなたを連れて天涯に行く)
5	感情に走りやすい、繊細である	「女人的心情 九月的天气」(女の気持ち 九月の天気のようにだ)
6	マイナスの品質を持つ(嘘つき、拜金主義、エゴイスト、不誠実など)	「愛してる」って女が言ってきたって誰かのきく代用品でしかないんだ」 「女朋友要的 Tiffany LV Gucci 能不能去办个终身无息」(彼女がほしい Tiffany LV Gucci 一生涯無利息で借りられるか)

7	性的な存在にされる	「可愛い女とヤれるわ」
8	身体的特徴を見られて客体化される	「艶やかな口唇からこぼれる言葉はすべて貴女だけの詩」 「长睫毛女孩」(長いまつ毛の女の子)
9	所有される	「你是茫茫人海中我的女人」(あなたは人混みの中で見つけた私の女)
10	非現実的である	「大国的英雄や戦火の少女」 「あどけない少女のまま」
11	自立的・独立的である	「勤めていた女の子はかなり面白い夢をこっそり企んでいて」 「我不是你的乖乖猫 女人该有一点骄傲」(私はあなたのお利口ねこじゃない 女は自分にプライドを持つべきだ)
12	いろいろ考える、単純ではない	「女の勘は鋭いもの」 「原来每个女孩都不简单」(女の子って色々考えるんだ)
13	その他(注8)	「女が運転する車が止まって「乗せてあげる」と言った」

日中の各年代の歌詞における「女」を含む表現が上記のカテゴリーのうち、どのようなカテゴリーとして表されているかをまとめたものが以下の表4である。

表4 日中の歌詞に見られる「女性」のカテゴリー(合計)

カテゴリー	日本語		中国語	
	1990年代	2000年代	1990年代	2000年代
1	9 (14.5%)	1 (2.8%)	2 (4.3%)	
2		1 (2.8%)	4 (8.7%)	3 (4.8%)
3	5 (7.7%)	4 (11.1%)	2 (4.3%)	9 (14.5%)
4	6 (9.7%)	4 (11.1%)	4 (8.7%)	10 (16.1%)
5	2 (3.2%)		15 (32.6%)	9 (14.5%)
6	2 (3.2%)	1 (2.8%)	5 (10.9%)	10 (16.1%)
7	17 (27.4%)	6 (16.7%)		
8	2 (3.2%)	1 (2.8%)		8 (12.9%)
9	1 (1.6%)			1 (1.6%)
10	11 (17.7%)	11 (30.6%)		6 (9.7%)
11	3 (4.8%)	2 (5.6%)	8 (17.4%)	2 (3.2%)
12	2 (3.2%)		6 (13.0%)	
13	2 (3.2%)	5 (13.9%)		4 (6.5%)
合計	62 (99.4%)	36 (100.2%)	46 (99.9%)	62 (99.9%)

表4における「女性」のカテゴリーを見ると、日本語は1990年代には、カテゴリー7「性的な存在」としての「女性」が最も多いのに対して、2000年代には、カテゴリー10「非現実的」な「女性」が最も多く見られる。一方、中国語では1990年代には、カテゴリー5「感情に走りやすい、繊細」な「女性」が最も多いのに対して、2000年代には、カテゴリー4「パートナー・恋愛の対象として必要とされる」「女性」とカテゴリー6「マイナスの品質を持つ」「女性」が最も多く見られる。また、日本語に多く見られたカテゴリー7「性的な存在」としての「女性」は中国語の歌詞における「女」を含む表現には見られなかった。

次に、いずれの年代においても多く見られた日本語の「女」、中国語の「女人」がどのようなカテゴリーとして表されているかを形式別に表したものが表5である。

表5 日中の歌詞に見られる「女」と「女人」

カテゴリー	日本語		中国語	
	1990年代	2000年代	1990年代	2000年代
1	4 (15.4%)	1 (7.7%)		
2		1 (7.7%)		1 (4.3%)
3	5 (19.2%)	1 (7.7%)		8 (34.8%)
4	1 (3.8%)	2 (15.4%)		2 (8.7%)
5	1 (3.8%)		15 (60.0%)	4 (17.4%)
6	1 (3.8%)	1 (7.7%)	5 (20.0%)	5 (21.7%)
7	9 (34.6%)	4 (30.8%)		
8				
9	1 (3.8%)			1 (4.3%)
10				
11	1 (3.8%)	1 (7.7%)	5 (20.0%)	
12	1 (3.8%)			
13	2 (7.7%)	2 (15.4%)		2 (8.7%)
合計	26 (99.7%)	13 (100.1%)	25 (100%)	23 (99.9%)

表5から、日本語の「女」を含む表現の中で最も多く見られた単独の「女」は、いずれの年代においてもカテゴリー7「性的な存在」として最も多く描かれていることがわかる。一方、中国語の「女」を含む表現の中で最も多く見られた「女人」は、1990年代にはカテゴリー5「感情に走りやすい、繊細」、2000年代にはカテゴリー3「パートナー・恋愛を必要とする、恋・パートナーに憧れる」存在として最も多く見られる。

## 5. 考察

本稿では、日中の歌詞の中で表される「女性」の変化を明らかにするために、1990年代と2000年代の歌詞を比較・分析した。その結果、以下の点が明らかになった。

- ①日本語の歌詞で「女性」に直接的に言及されることは少なくなっている。
- ②日本語の歌詞では、1990年代には「性的な存在」としての「女性」、2000年代には「非現実的」な「女性」が最も多く見られる。
- ③中国語の歌詞では、1990年代には「感情に走りやすい、繊細」な「女性」、2000年代には「パートナー・恋愛の対象として必要とされる」「女性」と「マイナスの品質を持つ」「女性」が最も多い。
- ④中国語の歌詞では、どの年代においても「性的な存在にされる」「女性」が見られない。
- ⑤日本語の「女」を含む表現の中で最も多く見られた「女」は、いずれの年代においても「性的な存在」として最も多く描かれる。
- ⑥中国語の「女」を含む表現の中で最も多く見られた「女人」は、1990年代には「感情に走りやすい、繊細」、2000年代には「パートナー・恋愛を必要とする、恋・パートナーに憧れる」存在として描かれる。

本稿で明らかになった上記の点について、以下に考察を行う。

まず、①の日本語の歌詞で「女性」に直接的に言及されることが少なくなっていることについて、左古(2015)で指摘されるように、1968年以降のヒット曲では「私とあなた」の恋愛感情や恋愛関係が最も重要なテーマとなっており、1990年代から2000年代においてもこれらをテーマとした曲が存在している。このことに加えて、1990年代・2000年代ともに異性愛中心主義社会であるという日本社会の特徴を踏まえると、歌詞において「女性」に直接的に言及されることの減少は、歌詞で「女性」が描かれなくなったのではなく、非明示的な形で「女性」に言及されることが多くなった可能性が考えられる。1986年以来、女性の社会進出の法的な整備が行われ、女性の役割が多様になる中、歌詞における「女性」は、恋愛の世界に生き、男性にくっついている存在(寿岳, 1979)から、男性にすぎるもの(例(1))、或いは自立的な人(例(2))といった多様な存在に変わりつつある。しかし、期待される「女性」は依然として、男性を支える存在として描かれている(例(3))。つまり、「女性」性、いわ

ゆる「女らしさ」そのものに「自立」が意味付いているとは言えない。そこで、自立的な女性を表現するときには、「女」や「少女」を用いるよりも、「女性」性が連想されにくい非明示的な形で、男性と対等な立場にいる女性が描かれるようになる。このことは、「ボク」などが用いられ、くっつきあうような感情の表現より、自立で理性的な「女性」に言及する（角，2013）例が見られることから窺われる。アニメなどで描かれる女性の主人公が男装や変身してから能動的に戦う（山下，2002，中川，2011）のと似たように、非明示的な形（変身）で自立的な女性が描かれるようになったと言えよう。

- 例（1）地味に生きて行くの あなた好みの女 目指せっ！！（1994）  
 例（2）勤めていた女の子はかなり面白い夢をこっそり企んでいて（2005）  
 例（3）大親友の彼女の連れ おいしいパスタ作ったお前 家庭的な女がタイプの俺 一目惚れ（2006）

次に、②の日本語の歌詞では、1990年代には「性的な存在」としての「女性」、2000年代には「非現実的」な「女性」が最も多く見られることについて、Sacks（1972）によれば、社会の中であるカテゴリーに言及されるのはそれが意味を持つ場合であるという。すなわち、日本語の歌詞において、1990年代には「性的な存在」としての「女性」、2000年代には「非現実的」な「女性」といったカテゴリーにそれぞれ注目されているということである。1992年前後のバブル経済崩壊以降、それまでの経済中心の価値観から多様な価値観が生じ、男女ともに「幸せの基準を探す」男女（難波江，2003）が見られるようになった。それに伴い、本質的とも言える「性的な存在」としての男女の役割意識も薄れることになった。この点は、2006年に登場した性交渉や恋愛に消極的な「草食男子」という表現（森岡，2011）からも窺われる。そのように、「性的な存在」としての現実的な「女性」が回避された結果、「非現実的」な「女性」により注目されるようになったと考えられる。例（4）のように、「女」に対して「誰かと取っ替えのきく代用品でしかない」と、現実的な「女」の愛に疑惑を抱いている様子が窺われる。

- 例（4）「愛してる」って女が言ってきたって誰かのきく代用品でしかないんだ（2007）

一方、中国語の歌詞では、1990年代には「感情に走

りやすい、繊細」な「女性」、2000年代には「パートナー・恋愛の対象として必要とされる」「女性」と「マイナスの品質を持つ」「女性」が最も多いこと（③）について、1979年から1983年にかけて中国大陸で流行した歌は、新しい生活への憧れや労働者への賛美などを主な内容としたものであったが、1980年代後半からは、テレサ・テンの歌を始めとする、恋愛などを歌うポップソングが見られるようになった（王，2005）。言い換えれば、歌詞の中で、それまでの労働力としての女性とは異なる女性に注目されるようになったと言えよう。このような背景をふまえて、1990年代になると、工場などで労働者として働く女性ではなく、それとは対照的な「繊細」な女性像がより多く描かれるようになったと考えられる。

例えば、以下の例（5）「命运不是轆轤」（運命は車輪ではない）という歌詞には、「挑水的媳妇谁愿挑着黄水汤」（水担ぎする奥さん…泥水を担いでいる）という労働する「女性」が描かれている。それと同時に、「谁愿」（誰が自ら望んで…になる？）という表現が用いられ、それで良いのかということが問いかけられている。さらに、「女人不是泥呀…命运不是那轆轤要挣断那井绳」（女は泥じゃない…運命は車輪のような変えられぬものではない 井戸の縄を引きちぎるのだ）」と述べられており、経済的貧困で過酷な労働をせざるを得ない女性の「運命」から抜け出すことが大事であると主張されている。

- 例（5）挑水的媳妇谁愿挑着黄水汤 黄水汤 女人不是泥呀 男人不是筐 命运不是那轆轤 要挣断那井绳（水汲み女房は本心から泥水汲みしたいと思わないだろう 泥水 女は泥じゃない 男は筐じゃない 運命は車輪のような変えられぬものではない 井戸の縄を引きちぎるのだ）（1991）

それまで認識されてきた労働者としての「女性」には男性と同様の「たくましさ」が求められるが、1990年代以降は、それとは対照的な「傷つきやすさ」や「繊細さ」に注目されている。1993年の歌詞には、例（6）「容易受伤的女人」（傷つきやすい女）と例（7）「很爱流泪」（涙もろい）という表現が見られ、「私は傷つきやすい女」という女性自らの視点、「女は優しくて涙もろい」という繊細な「女性」が語られている。

- 例（6）我是容易受伤的女人（私は傷つきやすい女）  
 夜深人寂只留我 伤心的女人（寂しい夜にこの傷ついた女だけ居残った）（1993）

例(7) 他们告诉我女人很温柔很爱流泪 说这很美  
(女は優しくて涙もろいと 彼らが私に教えた とてもきれいだと)(1993)

2000年代になると、中国の「女性」は、パートナーや恋愛の対象として必要とされながら、「マイナスの品質を持つ」(特に拝金主義の)「女性」として批判されるようになる(胡・白・彭, 2011, 朱・羅, 2011)。その要因としてはまず、中国大陸の結婚市場における男女比が男性に傾き、男性の結婚相手探しが深刻になる中(郭・鄧, 2000)、恋愛相手・結婚相手としての女性がより必要とされるようになったことが考えられる。中国語の歌詞からも例(8)のように、「女性」はパートナーや恋愛の対象として必要されるようになっていくことがわかる。

例(8) 女人女人 多么希望你是对的人(女よ あなたが私のいい人であってほしい)(2008)

一方、男性の結婚相手探しが深刻になるにつれて、結婚相手選びに関して女性に有利な状況が生じる。そのような状況で、男性に経済力を求める拝金主義の「女性」や男性を弄ぶ「女性」も見られるようになる。それらの「女性」が歌詞の中で繰り返されることによって、女性に対する批判が構築されることになる。例(9)では「女朋友」(彼女)がパートナーにブランド品を要求する様子が描かれているが、このような「女朋友」が歌詞の中で繰り返されることによって、女性に対する批判が構築されることになる。Tongdaeng・Fan・Hou(2017)が指摘するように、その当時の中国女性を拝金主義者、虚栄心の強い者として批判する歌である「没有车钱房」(車も金も家もない)が2011年に出されたことをきっかけとして、そのような女性に対する批判はさらに高まっている。

例(9) 女朋友要的 Tiffany LV Gucci 能不能去办  
个终身无息…假装女朋友爱我胜过那颗小玩意  
(彼女がほしい Tiffany LV Gucci 一生涯無利息で借りられるか…彼女はあの小さいものより自分のほうを愛していると 自分に言い聞かせる)(2009)

④の中国語の歌詞ではどの年代においても「性的な存在にされる」「女性」が見られないことについては二つの要因が考えられる。一つは、日本よりも中国の方が女性のセクシュアリティに関して保守的な観念が存在するという点である。この点は、中国語のこと

わざには日本語よりも女性の貞操が強く要求されること(林, 2012)や、男専用・女専用と辞書の注釈に明記されたことば(「細腰」「傾城」など)では女性を評価する際に、家庭にいる女性が評価基準の中心に据えられ、家庭外の性産業に従事する女性をより低く貶すこと(陳, 2013)からも窺われる。

もう一つの要因は、日本のメディア放送よりも、中国では、セクシュアリティに関わる表現に対して厳しい措置がとられていることが考えられる。日本は放送禁止の歌を決める根拠となる「放送音楽などの取り扱い内規」(山口・伊佐 2003)において、「性に関する表現で、直接、間接を問わず、視聴者に困惑・嫌悪の感じを抱かせるものは使用しない」(注9)といったセクシュアリティに関わる表現を規制する規定がある。しかし、山口・伊佐(2003)で指摘されるように、法的な強制力や罰則はなく、内規の取扱いはい各放送局に任せられており、制作側が「事なかれ主義」的な判断を行う可能性が存在するとされる。

一方、中国のメディアで放送される音楽は「广播电视管理条例」「互联网文化管理暂行规定」などによって、「ラジオやテレビ局ではわいせつな内容を含む番組などの製作・放送が禁止される」(注10)と厳格に規制されている。その上、罰則が明確であるとともに、放送する際には国家新聞出版广电总局(現在:国家广播电视总局)から承認を得る必要がある(注11)。

これら二つの要因を重ねて見ると、日本に比べて、女性のセクシュアリティに関して保守的な観念を持つ中国では、メディアを通じてさらにセクシュアリティに関する表現が規制されていると言えよう。したがって、日本語の歌詞ではどの年代においても最も多く見られた「性的な存在」としての「女性」が、中国語の歌詞ではどの年代においても見られなかったと考えられる。

最後に、形式別に見た特徴である⑤の日本語の「女」は、いずれの年代においても「性的な存在」として最も多く描かれることと⑥の中国語の「女人」は、1990年代には「感情に走りやすい、繊細」、2000年代には「パートナー・恋愛を必要とする、恋・パートナーに憧れる」存在として描かれることについて考えてみたい。

まず、日本語の歌詞において単独の「女」がどの年代においても「性的な存在」として多く描かれるのは、女性は常に性的存在としてのみ「知覚」されること(沼崎, 2001)が、歌詞に映されているためと考えられる。ただし、年代が進むにつれて「性的な存在」として描かれることが減少したことは、②に関する考察として先に述べたように、「性的な存在」としての男女の役

割意識が薄れたことを裏付けていると言えよう。

中国語の歌詞に関する⑥について、1990年代には「感情に走りやすい、繊細」な「女人」多く描かれていることは、③に関する考察として先に述べたように、社会の変動に伴い、工場などで労働者として動く女性とは対照的なカテゴリーの女性が注目されたためであると考えられる。また、同じく③に関する考察で述べたように、男性の結婚相手探しが深刻になる中（郭・鄧, 2000）、恋愛相手や結婚相手としての女性がより必要とされるようになった。そのような背景のもとで、「女人」が「パートナー・恋愛を必要とする、恋・パートナーに憧れる」女性像として描かれている。異性愛中心主義社会で「男性の恋愛相手・結婚相手を探すこと」が求められる社会において、寿岳（1979）で指摘するように、期待される女性像が歌詞を通して社会に宣伝されていると言えよう。

## 6. おわりに

本稿では日中の歌詞の中で表される「女性」の変化を明らかにするために、1990年代と2000年代の歌詞を比較・分析した。時代が進むにつれ、「女性」に直接的に言及される頻度や、最も注目される「女性」の特性が変化することが明らかになったが、それらには、日中で共通点と相違点があることが確認された。

本稿では、日中の歌詞の中で「女性」が明示される表現のみを分析対象としたが、歌詞の中では女性像が暗示的に描かれる場合も見られる。今後は曲数を増やして本稿の結論を検証するとともにこの点についても検討する必要がある。また、本稿では「女性」が表されている前後の文脈に着目したが、分析範囲を広げて歌詞における「女性」について考えることも必要であろう。

さらに、本稿においては日中の歌詞に表される「女性」を分析したが、そこでの分析結果が日中社会のジェンダーの相違点や両言語のジェンダーの相違点であることを確認するためにも、今後は分析対象を広げるとともに、他のメディア形態も分析対象とする必要がある。いずれも今後の課題としたい。

## 【謝辞】

本稿で分析資料として用いた歌詞コーパスを貸与してくださった左古輝人先生（首都大学東京）にお礼申し上げます。

## 【注】

- 1) 本稿では中国大陸に限定する。
- 2) ここでいうポップソングとは、中国大陸で流行していると考えられる歌詞付きのポップミュージック（「通俗歌曲」）に限定する。1986年『让世界充满爱』『一无所有』以降、ポップソングは中国大陸で大きく発展し始めたと考えられる（王, 2005）。
- 3) 中国大陸ではポップソングの受け入れが比較的遅く、「中国歌曲排行榜」「东方风云榜」は1993年度、「全球华语榜」は2000年度から始まっている。そのため、1990～1992年度の歌詞は当時の流行歌を収録されたと考えられる雑誌『音像世界』から抽出した。
- 4) 本稿では延べ語数を計算した。例えば、一つの歌に「女」が3回出現した場合、3回に計算した。その理由は、ジェンダーは言説のパフォーマンスによって構築され（Butler, 1990）、繰り返しの回数によって「女性」の構築する度合いが異なると考えられるためである。
- 5) 「女孩」（または「女孩子」）とは女の子や女子、「女老师」とは女教師や女性教員、「女儿」とは娘や女、「女朋友」（または「女友」）とは女の恋人、「女郎」とは年ごろの娘や若い女性をそれぞれ表す。
- 6) 2名の評定者間で一致しなかったものについては、2名で話し合った上で再分類を試み、いずれかのカテゴリーに含めた。
- 7) 「地味に生きて行くの。あなた好みの女。目指せ。」は、カテゴリー1「従順である、服従する、犠牲者である」にも当てはまる「女性像」である。本稿ではこのような「女性像」に対して、それぞれのカテゴリーとして認定した。
- 8) 上記のカテゴリーに収まらなかった項目が含まれる。
- 9) 一般社団法人 日本民間放送連盟「日本民間放送連盟 放送基準（付）放送音楽などの取り扱い内規」2004年1月改訂 <https://www.j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba101032#ongaku>
- 10) 「广播电视管理条例」1997年9月1日实施三十二条
- 11) 国家广播电视总局 国家新闻出版广电总局办公厅「关于进一步规范网络视听节目传播秩序的通知」<http://www.sapprft.gov.cn/sapprft/govpublic/6684/1798.shtml>

## 【歌詞出典】

日本語

- 1991年「LADY NAVIGATION」B'z  
 1992年「部屋とYシャツと私」平松愛理  
 1993年「GOING GOING HOME」H Jungle with t  
 1994年「あなただけ見つめてる」大黒摩季  
 1995年「Tomorrow never knows」Mr.Children  
 2000年「finale」L'Arc ~ en ~ Ciel  
 2005年「愛と欲望の日々」サザンオールスターズ  
 2005年「Dreamland」BENNIE K  
 2005年「未来」Mr.Children  
 2006年「Triangle」SMAP  
 2006年「純恋歌」湘南乃風  
 2007年「フェイク」Mr.Children  
 2008年「泣かないで」羞恥心

中国語

- 1991年「命运不是轡轡」韦唯  
 1992年「说变就变」豹小子  
 1993年「容易受伤的女人」邝美云  
 1993年「姐姐」张楚  
 1998年「笨小孩」刘德华・吴宗宪・柯受良  
 1998年「对面的女孩看过来」任贤齐  
 1999年「走开」陈琳  
 2001年「故乡」许巍  
 2006年「对不起谢谢」陈奕迅  
 2006年「右手戒指」金海心  
 2006年「晴朗」许巍  
 2008年「男人女人」许茹芸・阿穆隆  
 2009年「失业情歌」胡彦斌

## 【参考文献】

- Avery, L. R., Ward, L. M., Moss, L., & Üsküp, D. (2017). Tuning gender: Representations of femininity and masculinity in popular music by Black artists. *Journal of Black Psychology*, 43(2), 159-191.
- Butler, J. (1990). *Gender Trouble*. New York and London: Routledge.
- Cooper, V. W. (1985). Women in popular music: A quantitative analysis of feminine images over time. *Sex roles*, 13(9-10), 499-506.
- Flynn, M. A., Craig, C. M., Anderson, C. N., & Holody, K. J. (2016). Objectification in popular music lyrics: An examination of gender and genre differences. *Sex roles*, 75(3-4), 164-176.
- Lu, Z. (2018). The anxiety of love: an analysis of recent Chinese popular music. *Social Semiotics*, 28(3), 429-441.
- Sacks, H. (1972). On the analyzability of stories by children. *Directions in sociolinguistics: The ethnography of communication*, 325-345.
- Tongdaeng, T., Fan, M., & Hou, W. An Analysis on Contemporary Chinese Youth's Standard of Love and Marriage from Song 'No Car No House'. *Journal of International Studies*, Prince of Songkla University, 7(1), 163-178.
- Zheng, S. (1997). Female heroes and moonish lovers: women's paradoxical identities in modern Chinese songs. *Journal of Women's History*, 8(4), 91-125.
- 尾崎祐司 (2014) 「歌唱教材としてのヒット曲に潜む男女観：高等学校教科書掲載曲の歌詞傾向」『上越教育大学研究紀要』33, 237-247.
- 左古輝人 (2015) 「ヒットソング歌詞の変遷：1968年から2013年まで」『人文学報』497, 49-85.
- 寿岳章子 (1979) 『日本語と女』, 岩波書店.
- 角知行 (2013) 「女性歌手の流行歌にみる「キミ(君)」の変遷」『天理大学人権問題研究室紀要』16, 19-31.
- 田中和子 (2009) 「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在」『新聞紙面にあらわれたジェンダー』第五回調査を中心に『国学院法学』46 (4), 55-134.
- 中川裕美 (2011) 「少女マンガの「戦う少女」にみるジェンダー規範：『リボンの騎士から『美少女戦士セーラームーン』まで」『現代社会研究科研究報告』6, 127-142.
- 難波江和英 (2001) 「Jポップに見る男と女の言説 平成の若者の「こころもとなさ」I」『女性学評論』15, 1-21.
- 難波江和英 (2002) 「Jポップに見る男と女の言説：平成の若者の「こころもとなさ」II」『女性学評論』16, 121-142.
- 難波江和英 (2003) 「Jポップに見る男と女の言説 平成の若者の「こころもとなさ」III」『女性学評論』17, 73-114.
- 任利 (2010) 「現代中国語とジェンダー」遠藤織枝・小林美恵子・桜井隆 (編) 『世界をつなぐことば：ことばとジェンダー / 日本語教育 / 中国女文字』三元社, 199-216.
- 沼崎一郎 (2001) 「ミニスカートの文化記号学：<男力主義>による男性の差別化と抑圧」『現代文明学研究』4, 297-310.
- 森岡正博 (2011) 「「草食系男子」の現象学的考察」『The Review of Life Studies』1, 13-28.

- 山川欣也 (2009) 「歌謡曲のジェンダー: 「わたし」の不在が意味すること」『長崎外大論叢』13, 217-232.
- 山口真也・伊佐常利 (2003) 「放送が禁止された歌」『文化情報学研究』2003(2), 51-82.
- 山下玲子 (2002) 「「アニメとジェンダー」: 変わる? アニメの世界」『現代社会学研究』15, 107-118.
- 森繁男 (1992) 「「ジェンダーと教育」研究の推移と現況」『教育社会学研究』50, 164-183.
- 吉崎泰博 (2015) 「J-POP 歌詞にみる若者のジェンダー意識と自己世界」日本語ジェンダー学会 第15回年次大会 シンポジウム: 音楽の中にもみるジェンダー意識の変容 発表要旨.
- <http://www.gender.jp/journal/no15/15-06-yoshizaki.htm> (2018年6月24日取得)
- 林玉恵 (2012) 「日中両言語のことわざからみるジェンダー」遠藤織枝・小林美恵子・桜井隆 (編) 『世界をつなぐことば: ことばとジェンダー / 日本語教育 / 中国女文字』三元社, 217-236.
- 陳叶斐 (2013) 汉日隐形性别词语对比研究. 华东师范大学博士論文 (未公刊).
- 郭志刚・鄧国胜 (2000) 「中国婚姻拥挤研究」『市场与人口分析』6(3), 1-18.
- 胡连利・白树亮・彭焕萍 (2011) 「媒介非中心: 解读传媒低俗化的另一种视角」『新闻知识』6, 31-33.
- 李妍 (2015) 当代中国流行歌曲歌词中的择偶偏向研究—进化心理学的视角. 华中师范大学修士論文 (未公刊).
- 陸正蘭 (2013) 『歌曲与性别: 中国当代流行音乐研究』中国社会科学出版社.
- 王思琦 (2005) 1978-2003年间中国城市流行音乐发展和社会文化环境互动关系研究. 福建师范大学博士論文 (未公刊).
- 張純静 (2008) 中国大陆流行歌曲中的女性形象研究 (1996-2006). 西南大学修士論文 (未公刊).
- 朱丽・羅文 (2011) 「当下相亲类电视节目中的女性形象分析」『中国报业』12, 23-24.